

3. 国際共同研究

【採択時公表】

3- (1) 全体概要

本欄には、本事業を実施することにより、到達目標へどのように繋げていくのかを、2. に記載した実施体制等を含めて、全体的な概念を図等を使って分かりやすく示した上で、以下に続く3- (2) 研究目的及び到達目標、3- (3) 研究計画・方法の各項目について全体的な概要を簡潔にまとめて記述してください。(図と記述で1頁以内)
 なお、本欄(3- (1))は採択された場合、採択後本会HP等で公表される予定です。

〔研究目的及び到達目標〕

地球温暖化により強化する台風・豪雨などの極端気象災害と洪水災害・高潮災害、南海トラフなどの沈み込み帯で想定される巨大地震による地震・津波災害と斜面災害、大規模火山噴火災害とそれに伴う土砂災害など、近い将来、大規模自然災害の発生が予想されており、これらの被害軽減に向けて総合的な防災研究を進めることが喫緊の課題である。本プログラムでは、京都大学防災研究所が総力を結集して、世界防災研究所連合(GADRI)とも連携しつつ、上述の大規模自然災害の被害軽減に向けた最先端国際共同研究ネットワークの構築に取り組む。

〔研究計画・方法〕

自然災害研究分野において最近数年間で進展した新たな現象知見や観測・解析手法、およびそれらの基礎となる理論・モデル構築などを取り入れて、自然災害の発生メカニズム解明と発生予測および総合防災学の確立に向けた最先端国際共同研究ネットワークの構築をめざす。具体的には次の2つの重点研究課題A、Bおよびサブ研究テーマA-1、A-2、B-1を設定する。

- A) 自然災害の発生メカニズム解明および発生予測に関する研究
 - A-1: 巨大地震災害および火山噴火災害の発生メカニズムの解明
 - A-2: 極端気象災害の発生および気候変動の予測に関する研究
- B) 自然災害に対する総合防災学の確立に関する研究
 - B-1: 地震災害・土砂災害の被害軽減および災害復興過程の研究

上記3つのサブ研究テーマに対応して、それぞれ2~3名の次世代を担う若手研究者を3年間にわたり延べ7名派遣する。防災研究所において立ち上げる若手研究者海外派遣連携委員会は、各研究テーマの推進及び総合化に向けて、研究者の招聘を通じた派遣先と防災研究所との連携を強化する。研究成果は先方の受け入れ先研究者と対等な立場で取りまとめ、評価の高い学術誌に受け入れ先研究者と共著で投稿・印刷されることをもって事業の到達度を検証する。これらの共同研究成果を踏まえて、連携委員会のもとで担当研究者、派遣研究者を中心とした研究グループと派遣先研究機関等との国際ワークショップを実施し、総合防災学の確立に向けた知識の融合をおこなう。さらにここで形成されたネットワークを継続的に維持するため包括的な国際交流協定の締結につなげる。



※本ページは増やせません。

(平成29年度公募)